

令和元年度第 1 回地域助け合い創出研究会 アンケート集計結果

○開催日：令和元年 6 月 26 日(水) 13:30～16:00

○内 容：講演

-釜石発！支え合いマップを用いたご近所ふくしの進め方

発表者：社会福祉法人釜石市社会福祉協議会

地域福祉課長兼生活ご安心センター副所長 菊池 亮氏

グループでの意見交換

○参加者：88 人

(内訳)	地域助け合い協議会委員	13 人	(14.8%)
	民生委員	22 人	(25.0%)
	地域の代表者(地域公民館長等)	8 人	(9.1%)
	社会福祉協議会	9 人	(10.2%)
	介護事業所	5 人	(5.7%)
	その他	31 人	(35.2%)

○回答者：63 人 (回収率 71.6%)

① 年代	20代	2 人	(3.2%)
	30代	1 人	(1.6%)
	40代	6 人	(9.5%)
	50代	6 人	(9.5%)
	60代	26 人	(41.3%)
	70代以上	22 人	(34.9%)
② 性別	男性	30 人	(47.6%)
	女性	33 人	(52.4%)
③ 回答者の内訳	地域助け合い協議会委員	16 人	(25.4%)
	民生委員	15 人	(23.8%)
	地域の代表者(地域公民館長等)	12 人	(19.0%)
	介護事業所関係	4 人	(6.3%)
	その他の公的機関	9 人	(14.3%)
	一般市民	1 人	(1.6%)
	その他	3 人	(4.8%)

	未記入	3人	(4.8%)
④ 参考になったか	大変参考になった	32人	(50.8%)
	参考になった	30人	(47.6%)
	参考にならなかった	0人	(0.0%)
	未記入	1人	(1.6%)
⑤ 今後の地域での活動に取り入れられること	ある	44人	(69.9%)
	ない	5人	(7.9%)
	未記入	14人	(22.2%)

* 「ある」場合、取り入れたいと思ったこと

- ・ マップづくりの基本的な事項
- ・ マップづくりにおいて、地域の資源を把握し、有効に活用すること。
- ・ ご近所についての捉え方、メモ的
- ・ 人材の発掘等に活用出来る。
- ・ 民生委員としての訪問活動など
- ・ 困りごとなどを聞くこと
- ・ 住民主体のボランティア活動を考えたい。
- ・ 地区→地域→ご近所 支え合い 助け合いの流れ
- ・ アンケート調査と支え合いに必要なマップ作成
- ・ 地区性があると思いました。
- ・ 活動できる人、応援できる人を少しでも増やしていくこと。
- ・ マップ作りはお宝が見える。マップ作りを進めたい。
- ・ 地域には世話役が必ずいる。→ 探すのが先決 →その芽を摘まないでほしい！！
- ・ ご近所ヘルパー
- ・ マップづくり 6名 ・マップの作り方 2名
- ・ 住み良いまちづくりのためのマップづくり
- ・ 地域でのマップ作成、見守り、見回り活動、要援護者の手助け
- ・ 地域の情報収集の拠点作りの参考にしたいと思います。
- ・ 地域の将来の問題解決に役立てたい。
- ・ 資源の活用
- ・ 自分の近所の資源探しと得意技の持ち主探し
- ・ 地域公民館内の婦人部を巻き込んで、サロンを増やしたい。
- ・ 支え合いマップの作成や利用を始めたい。

- ・ ごみ集め、独居の方のネットワークづくりなど
- ・ 5年かけて、今のマップになったと伺い、時間がかかる事を覚悟して取り組む気持ちになりました。
- ・ 地域内における助け合い意識の醸成
- ・ マップ作成で、課題解決に悩むことがあるが、(役割分担)住民が担えることを担うと聞き、役割分担を取り入れたいと思った。
- ・ 住民流ということをしっかり踏まえて実施することが必要と思います。
- ・ 地域でサロンを有志で行い、現在実行中で、参考になりました。
- ・ 世話やきさんを見つけておくことが大切だと感じた。
- ・ マップの取り扱い、マップの活用
- ・ マップづくりが最終目的ではなく、支え合いの見える化に必要だということ。
- ・ マップづくりにより、地域の資源を知り活用できたら・・・と思う。

⑥ 興味がわいたこと、学びとなったこと

- ・ 地域住民の理解を高めることについて、参考にしてマップづくりを進めたい。
- ・ 30～40世帯がマップづくりの適当な世帯であるということ。
→地域単位で考えなくてもよいということ。
- ・ マップの必要性がよくわかりました。
- ・ 福祉マップと要援護マップの違いについて
- ・ 地区助け合い協議会 - 社協 - 民生委員との交わり方を学んだ。
- ・ 情報を視覚化すれば分かりやすくなること。
- ・ やはり、何が現在行われているかを知り、次に進めることが大事。調査を行う。(アンケート)
- ・ 福祉という言葉にこだわらない、ひとくくりにしない。
- ・ 社会性の維持 1名、社会性の大切さ 1名
- ・ 筋肉量の減少の要因 → 社会性
- ・ マップづくりが目的ではなく、手段・段階である事ということで、その事を念頭に置きながら進めていきたい。
- ・ マップづくり
- ・ お茶のみ会の内容、プライバシーの確保について(個人情報の扱いについて)
- ・ 社協と協力してやっていきたい。
- ・ 地域には世話役(焼き役、おせっかい役)が必ずいる。
- ・ マップの取り扱い、プライバシーの考え方
- ・ マップの捉え方がわかった。
- ・ 地域内に少数ではあるが、お茶っこのみしている所があり、このグループの交流を図り、輪を広げていきたい。
- ・ 訪問機会が大事だということと、取り組みが大事だということ。

- ・ ご近所との付き合い方
- ・ 地ノ森一区内で、40～50 世帯に分けて出来そうなところからモデル的に支え合いマップづくりを
やってみては。
- ・ 自分は、何が出来て、何だと手伝えるか考えるきっかけになった。また、参加しやすい地域づく
りも必要ではないかと思った。
- ・ 同じ地域の方々との話し合いで、同じ方向を見ている事を実感しました。
- ・ 支え合いマップの必要性
- ・ ご近所ヘルパー ちょっとした困り事をご近所ですぐに解決出来たらいいなと思った。
- ・ ご近所ヘルパーや資源ゴミ出し等、他地区で住民がやっている助け合い活動を詳しく知りたいと
思った。
- ・ ご近所ヘルパー
- ・ 釜石の住民主体での新聞出しや声掛けのスライドを見て、とても参考になりました。
- ・ 釜石のように、マップづくりをきっかけに地域づくりを進めていきたい。
- ・ 一人暮らしの方との話し方、声のかけ方、お付き合いが難しい。
- ・ 地域の大切さが強くなれば、安心して暮らせることが分かった。
- ・ 支え合いマップの情報は、ご近所内だけで流通される。個人情報保護の問題も解決出来ると思わ
れたこと。

⑦ 次回の参加	する	49人	(77.8%)
	しない	4人	(6.3%)
	わからない	3人	(4.8%)
	未記入	7人	(11.1%)

⑧ 意見・要望

- ・ 実践の裏付けのあるお話は、勉強になりますね。
- ・ ありがとうございます。
- ・ 素晴らしい内容でした。ありがとうございます。
- ・ これからも関係機関と一緒に情報共有が出来ればいい。発表の時間が残念でした。(日頃市)
- ・ 大船渡地区支え合い協議会で進めているものをまとめれば、マップづくりになるのかな。
- ・ 地域の現状を知る時に、支え合いマップの必要性は理解できる。現実として、私の地域では支え
合いをする人材の確保が難しい。
- ・ 支え合いマップの先導的役割がよくわからない。(誰と作るか?)あまりにも個々の意見を尊重し
過ぎである。
- ・ 講師の質問に対する回答が長い。要点を絞った回答を望みます。～先生が言っていたのではな
く、講師の考え方を聞きたい。
- ・ もっぱら日常生活の延長線上の取り組みの中で、一定の成果があるのなら、あえて組織化して取

り組んでいく必要があるのか。

- ・ スーパーオールドの言葉、大変気に入りました。しかし、個人個人での取り方が違いますよね。
- ・ 若い世代は、仕事や育児もあって、地域の活動へ参加しにくい。参加しやすいような内容を役員世代は考えてほしい。
- ・ 30～50 世帯をどこで分ければいいのか。
- ・ 釜石でのマップ活動、とても参考になりました。
- ・ テーブルが狭く、メモが取りづらかった。
- ・ 参加して、話が聞けて良かった。個人情報などの扱いの難しさを感じた。
- ・ 感想が長く、質問が全て受け付けられなかったと思いました。
- ・ マップづくりの大切さが良くわかりました。困った人だけでなく、得意分野の発掘という意味でも、マップづくりは大切だと思いました。
- ・ 各地域の発表と講師の回答？のやり方に工夫が必要ではないかと感じました。
- ・ グループ討議の内容を発表する時間の配分、そしてさらに深める時間が欲しい。
- ・ マップづくりは大変良いと思い、参考にしたい。